

2017年8月22日掲載

「フィールドワークのススメ」

高橋はるみ知事らが経済交流拡大のためベトナムを訪問した。偶然同じ日に、私も夏休みでハノイを訪れていた。訪れた理由のひとつはベトナムのインバウンド（訪日旅行者）が増加していることだ。政府観光局の統計によると、去年は約23万人が訪れ、伸び率は前年プラス26.1%だった。経済成長著しいベトナムの現状をこの目で見てみたかった。

訪れた感想を一言で現すなら、カオスだ。自動車以上にバイクが道路を埋め尽くし無秩序に通行している。アオザイをまとい、てんびん棒のかごで果物を販売しているかと思えば、ブランド品を持って歩く人もいて、古さと新しさが混ざり今まさに発展している国だと実感した。日本の政府開発援助（ODA）で空港までの道路や病院が整備されたこともあって親日家が多く、日本語を勉強する人も増えているという。

現地を訪れて見えることは多い。学生時代は現地調査で研究するフィールドワークによく参加した。先日、日本地図学会で会った「東京スリバチ学会」「大阪高低差学会」などでは、山と谷の地形を観察するフィールドワークをしている。実際に歩くと新しい発見があって興味深く、地形散歩は今ブームになっている。

2020年の東京五輪・パラリンピックを控え、インバウンドは増えるだろう。美しい自然やおいしい食べ物がある北海道は、特にアジアに人気。海外の現地事情を把握することが、ビジネスチャンスや活性化の鍵になるはずだ。

（毎日新聞）